第76回スポーツニッポンフォーラム

「世界に羽ばたく日本人アスリートの秘密」～急増する背景に何があるのか～

スポーツ振興支援と国民の体力づくりを考える異業種交流勉強会「第76回スポーツニッポンフォーラム」が19日、東京都千代田区のKKRホテル東京で開催され200人が参加した。シンポジウムのテーマは「世界に羽ばたく日本人アスリートの秘密」～急増する背景に何があるのか～。パネリストに日本女子プロゴルフ協会（JLPGA）の小林浩美会長（62）、元サッカー日本代表FWの李忠成氏（39）を迎え、TBSテレビの小笠原亘アナウンサー（52）の司会進行で1時間にわたり意見交換した。

◇小林　浩美（こばやし・ひろみ）1963年（昭38）1月8日生まれ、福島県いわき市出身の62歳。女子ゴルフの国内ツアーで89年に6勝を挙げるなど通算10勝。米ツアーでは90年に日本人初の新人賞を受賞し通算4勝、欧州ツアーで1勝。08年からJLPGA理事、11年2月から現職。1㍍70。

小林浩美　日本女子プロゴルフ協会会長

200人が参加したスポーツニッポンフォーラムの模様

◇李　忠成（り・ただなり）1985年（昭60）12月19日生まれ、東京都保谷市（現西東京市）出身の39歳。Jリーグは04年からFC東京、柏、広島に在籍。12～14年はプレミアリーグのサウサンプトン、その後は浦和などでプレー。23年に現役引退。08年北京五輪代表。日本代表は11試合2得点。1㍍82。

李忠成氏　元サッカー日本代表

ネットの時代で目標目線が国内にとどまらない

アップデート能力がある選手が強く活躍できる

まずは日本代表に入って国際試合に出ること　李氏
海外で勝って格好よくかわいく強い選手目標　小林会長

小笠原　女子ゴルフは、世界ランキングで軒並み上位に日本人選手が入っている。

小林　選手の目標が高く、国内でも海外でも成績を出しています。また、私たち協会も海外に行きやすいように後押ししています。インターネットの時代になってからは、ファンの方々も国内のみならず海外での活躍を願っています。

小笠原　李さんは日本代表でひとつ上に長谷部誠、ひとつ下に本田圭佑や長友佑都、岡崎慎司という選手がいた。世界に打って出た中で一番いい世代。

李　ギラギラしていた。北京五輪に出場したが、皆まだJリーグのチームにいて、海外でもオレたちはできるんだと個人がそう思っていた。香川真司、岡崎、本田、内田篤人、吉田麻也…。僕は泥くさい選手だった。

小笠原　小林さんの頃は海外志向はどうだったか。

小林　女子ゴルフ界は、1970年代に樋口久子さん、1980年代は岡本綾子さん、1990年代は私など、10年スパンで数人程度が米ツアーに参戦していました。が、今年は日本選手が13人参戦し、インターネットの時代で目線が国内にとどまっていない。また、プロになったらすぐシードを獲り、海外でも勝ちたい。格好よくて、かわいくて強い選手が目標のようです。私たちの時代は徐々に経験を積んで強くなる、という感じ。

小笠原　李さんはどうでしたか。

李　世界のクラブに注目されなければいけない。そこを目標に考えると、まずは日本代表に入って活躍する。そして、国際試合に出ることだった。僕らの時代は凄く〝インフラ〟が整ってきた。どこにいってもボールが蹴れるし、元プロサッカー選手がいるような。それでも、まだビデオテープでマラドーナやロナウジーニョ、メッシたちのプレーを見ていた。でも、今はYouTubeがある。（サウサンプトン時代は）サッカー選手に対する一般の人たちの目が違うと感じた。サポーターが文化を作っているというか、どう選手を受け入れるか、目が肥えている。僕が道場破りのような感じでいいプレーすると〝お前はオレの息子だ〟と迎えてくれた。数字で結果が出るポジションだったことも良かった。

小笠原　小林さんは。

小林　日本での成績は平行移動しない。競争がもっと厳しい上に、当時の日本ツアーはほとんど3日間大会。米ツアーはほぼ4日間大会なので、日本ツアーでは滅多にない午後スタートが毎週ある。4日間の戦い方やその生活リズムに慣れるのに時間がかかる上に、言葉が違うし、国内時差があり、試合先への移動距離も長い。最初の頃は、試合をする前に神経を使って疲れました。現在、日本ツアーの全体試合数の50％を4日間大会に改革したので、選手は海外に行っても普段通りに試合が運べて、すぐ活躍しやすい環境になっています。

小笠原　向き、不向きもあるのか。

小林　あるとは思います。が、目標をどこに置くのか、という観点からすると、海外でやりたいとなれば、苦手なことを克服するためにどうするか、などを考えますよね。やっぱり米ツアーは実力社会。成績が安定上位であれば、予選日のスタートが常に良い時間に組み込まれます。

小笠原　サッカーでは、李さんの頃から海外は身近なもの？

李　最初の一歩が大きいかな。奥寺康彦さんから始まって、カズさん、中田英寿さん、次に僕たち世代、その後に堂安律、久保建英…。今はどういう道を行けば活躍するか、皆、見ている。

小笠原　なるほど。

李　僕たちの時はユースチームから上がるといいとされていたが、今は高体連がいいと言われている。人間力の形成の仕方が違う。強い気持ちを持ってプロで活躍できる。僕が日本代表に入った時、皆、人間力があると感じた。聞く耳を持っている。僕が〝ここにパスを出してほしい〟と言うと、代表の選手は皆、一回、意見を飲み込む。そして、腹に落とし込んではき出す。これがカテゴリーが下の選手になると〝えっ～〟、〝だけど〟と跳ね返してくる。ここが圧倒的に違う。

小笠原　そうなんですね。

李　アップデート能力がある選手が強い。サッカーは選手としての平均寿命が25歳と言われる。一流選手はもっと長くて、僕は32歳だと思っているが、ゴルフに比べて短い。

小笠原　ゴルフは通信制の高校で学びながらプレーする選手もいますよね。

小林　増えていますね。あと、富里藍さんの世代から、ジュニアの同世代がかたまってプロ入りしています。前後の年代の選手も互いによく知っている。さらにアマチュア時代に世界の試合に出ている選手は、プロ入り後に世界の試合に出ても〝初めまして〟ではない。

小笠原　パッティンググリーンでも和気あいあい感がある。

小林　小さい頃から知っているので、いい意味で競争があり、ライバルでもある。プロ入り後に初めて互いに知り合う昭和の時代とは違います。昔はボールもクラブも性能が違い、練習を積んでスイングも感覚も磨いていましたが、今はトラックマンなどの数字と自分の感性を合わせるので、成長が早い。

李　サッカーも走行距離、マックススピードなどが数字で出る。1試合で12㌔ぐらい走ると言われているが3㍍のサイドステップを400回くらいやるので、長距離ではない。

小笠原　李さんと言えば11年アジア杯オーストラリア戦でのボレーシュート。

李　あのボレーのことを良く言われるが、努力は裏切らなかったということに尽きる。勝負をサイコロで例えれば6面のうち1面は絶対に負ける。毎日同じ練習をして、それで負けの1面が出たら仕方がないという気持ちでシュートしないと入らない。

小笠原　ゴルフの解説者でもパットが入る、入らないは神様のシナリオという人もいる。

小林　毎週試合があって、調子がいい人、悪い人がいる。その日、失敗しても諦めず、54ホールや72ホールと全体俯瞰してスコアメークをすることが大事。例えば、不動裕理さんは年間通して、圧倒的な安定度を誇っていました。それは、調子が下がった時に止まるラインが高いから。悪い時にどこまでで止めておくかすごく大事。マスターズのレベルだと、世界のトップが集うので相当し烈だと思う。

小笠原　マスターズで勝ったロリー・マキロイだって、刻んだ残り70～80㍎をクリークに入れたりする。取材していると、莫大な収入を得て人生が変わることもあるが、選手は自分のスキルだけで戦っている。キャディーと一緒に戦って、勝った選手が〝今週はたまたま自分の週だった〟と言うところを見ると、中継していてもいい競技だ思う。

李　海外で、負けたチームの選手がインタビューで〝今日は僕たちの日じゃなかった。相手チームの日だった〟という。日本では聞いたことがなかった。心から出たピュアな言葉。それが凄かったし、文化だと思う。

海外での実体験の声を聞けることが相乗効果　李氏
数字を出して科学的にデータ化しないとダメ　小林会長

李　話は変わるが、ブラジルに3週間行ってきた。初めて見たが、全然違う。欧州サッカーはチェス、囲碁のように駒をどう動かすかだが、ブラジルは金網ファイト。ボールが入ったら至る所でファイトが勃発している。国の色ですよね。

小笠原　李さんに合っていた？

李　どうだろう。僕はレバレッジ（利益率）を効かせるタイプだったので1対1はキツいですよ。今の日本はどちらかといえば戦術ありきのサッカー。時代の流れで根本的には間違っていないが、1対1を制して初めて戦術なんだと。そこをはき違えてはいけない。

小笠原　小林さん、ゴルフはナショナルチームに入った選手が活躍していますか。男子のジュニアは、オーストラリア人指導者のガレス・ジョーンズ氏のコーチングを受けるために皆当たり前に英語を勉強している。

小林　アマチュアの成績が比例する人、プロになってから花咲く人がいる。ガレスさんの指導をしているところを見たが、いろんな機材を使って、スイングはもちろん足の裏の動きまで分析して科学的。数字で把握している。そうしないとダメ。私たち協会は2013年以降、「ツアー強化策」のなかでスタッツを30くらいに増やして、いいところとそうではないところを数字で把握できるようにした。とにかく自分をデータ化する。例えば、キャリーを把握しないと攻めきれない。

小笠原　小林さんは会長職で、経営者と会うことも多いが、どういう人が多いか。

小林　素直な人が多いですね。

李　日本代表と同じです。

小林　何でもトライしようとする。〝でも〟とか〝だけど〟という言い訳はほとんど仰らない。

小笠原　なるほど、私も今日からあらためます…。海外で日本人アスリートが増えていることの相乗効果は。

李　あると思います。例えば、海外に行って戻ってきた選手が明らかに変わっている。Jリーグ、ドイツ、フランス、英国に行って変わる。その変わりようを見て、実体験を聞くと皆、アップデート能力があるので血や肉になる。本物の声を聞けることが相乗効果。

小笠原　そうですね。

李　今、サッカーを教えるために日本全国を回っているが、子供たちには〝なぜ〟を考えなさいと言っている。必ず失敗はする。そして、家に帰って、ご飯を食べて寝る。同じことをやってもうまくならない。〝なぜ〟を考えるとは、要はアップデート能力のこと。引き出しがあるかないか。ゴールデンエージと言われる小学4年生くらいから言葉の引き出しは与えた方がいい。

小笠原　ゴルフでいうと、海外に出た選手が戻ってきたり、スポット参戦する場合もあるが、相乗効果は。

小林　非常にありますね。それは日本ツアーが強い証明であり、選手が海外でも強いことは日本ツアーを応援してくださるファンや企業の満足度も高まります。さらには、スポンサー獲得の面ではスポーツ間の競争になるので、サッカー、野球などの中からゴルフを選んでもらえる可能性も高まります。

小笠原　若い選手に皆、人間力がある。

小林　私たち協会としてホスピタリティー強化に取り組んでいます。「新人セミナー」としてSNSの使い方、税金の仕組み、プロとしての立ち振る舞い、名刺の渡し方からビュッフェの取り方など、14項目以上の勉強をプロ入り1、2年目の選手に受けてもらうことを20年以上続けています。特にこの3年は、レギュラーツアー、ステップアップツアーの前夜祭やプロアマ戦での態度など、JALのファーストクラスを担当した先生に抜き打ち検査をしていただき、その結果を選手にフィードバックしています。

小笠原　高校3年でプロテストに受かってすぐ試合に出る選手も多いですし。

小林　私たちプロゴルファーは個人事業主であり、引退後にも必要なこと。清元登子会長の時に始まった社会人教育だが、それから協会内で引き継いでいる。

小笠原　驚かされることが多い。では、最後に、世界で戦うために必要なことは何か。

李　平和なことじゃないですか。平和でなければ渡航もできない。世界が平和になれば大会もできる。土壌がしっかりしていなければ花は咲かない。

小笠原　想像していなかった答えだが、究極の話。小林さん、いかがですか。

小林　本当ですね、平和だから私たちの仕事は成り立つ。仕事なので生活に直結する。甲子園の解説者でもパットが入る、入らないは神様のシナリオという人もいる。

小笠原　ゴルフの解説者でもパットが入る、入らないは神様のシナリオという人もいる。

小林　毎週試合があって、調子がいい人、悪い人がいる。その日、失敗しても諦めず、54ホールや72ホールと全体俯瞰してスコアメークをすることが大事。例えば、不動裕理さんは年間通して、圧倒的な安定度を誇っていました。それは、調子が下がった時に止まるラインが高いから。悪い時にどこまでで止めておくかすごく大事。マスターズのレベルだと、世界のトップが集うので相当し烈だと思う。

小笠原　マスターズで勝ったロリー・マキロイだって、刻んだ残り70～80㍎をクリークに入れたりする。取材していると、莫大な収入を得て人生が変わることもあるが、選手は自分のスキルだけで戦っている。キャディーと一緒に戦って、勝った選手が〝今週はたまたま自分の週だった〟と言うところを見ると、中継していてもいい競技だ思う。

李　海外で、負けたチームの選手がインタビューで〝今日は僕たちの日じゃなかった。相手チームの日だった〟という。日本では聞いたことがなかった。心から出たピュアな言葉。それが凄かったし、文化だと思う。

収入構造が会社勤めの方とは違って逆なので、現役の時にできるだけ頑張ることが大事。それは世界に出ても日本にいても同じで、シビアです。

小笠原　きょうはお二人、ありがとうございました！

司会進行

小笠原亘　TBSテレビアナウンサー

◇小笠原　亘（おがさわら・わたる）1973（昭48）3月1日生まれ、岩手県北上市出身の52歳。東洋大から96年にアナウンサーとしてTBS（現TBSHD）に入社。主にスポーツ（野球、競馬、相撲、ゴルフ、五輪など）を担当。16年からは男子ゴルフのマスターズのメイン実況。柔道初段。

NHKマイルC優勝馬パンジャタワー所有
サンフェルの深澤代表取締役に花束を贈呈

○…スポニチフォーラム会員であるサンフェルの深澤朝房代表取締役が所有する競走馬・パンジャタワーが5月のNHKマイルカップで優勝。懇親会で深澤氏に花束が贈呈された＝写真。あいさつでは「11月にオーストラリア、来年はサウジアラビア、ドバイに行く」と海外挑戦プランを明かした。

スポニチ小菅社長あいさつ　海外のスポーツ報道に力を

懇親会の冒頭、スポニチの小菅洋人社長＝写真＝があいさつし、印象に残ったこととして、李氏が語った〝アップデートの必要性〟、小林会長の〝悪くなったときの対応の仕方〟を挙げた。古江彩佳が米ツアー参戦当初、カートに乗ることを拒めず2罰打を受けたことも紹介。海外のスポーツ報道に力を入れることを訴えつつ、協賛各社への感謝の思いも伝えた。

日本スポーツ振興センター　芦立理事長「工夫すればもっと」

日本スポーツ振興センターの芦立訓理事長＝写真＝が懇親会の来賓代表として登壇。パリ五輪のメダル獲得数で、日本より人口が少ないオーストラリアが日本を上回っていることに触れ「工夫すれば日本ももっと活躍できる。スポーツくじの売り上げが伸びれば、さらに支援できる」と訴えた。李氏が「平和」が大事と話したことを受け「開発と平和のためのスポーツ」の重要性も説明。乾杯の音頭では「日本人アスリートが活躍できるように」と話し、杯を掲げた。

ミス日本懇親会に花を添える

2025ミス日本グランプリの石川満里奈さん＝写真右＝が白いドレス、ミス日本「海の日」の高橋彩乃さん＝同左＝が青の柄のドレスで登場し、懇親会に花を添えた。演歌歌手・石川さゆりのめいである石川さんは学業と並行して芸能活動も行っている。芝居の舞台に立つことを目指し「学生のうちに制服を着る役をやってみたい」と抱負を述べた。高橋さんは大学で微生物生態学を学んでいて、大学院に進学予定。実験が大好きで「それを仕事にできたら」と将来を見据えていた。

◇協賛企業◇

アインフォーマーシャルプロダクトトル
アサヒビール
OSBI損害保険
FB
王子製紙
大塚ホールディングス
鹿島建設
神田外語グループ
高速オフセット
サンリビバレッジソリューション
サンスポーツ
三井住友海上火災保険
下野洋
不動産新聞社
新日本製鉄
新栄リビング製作所
第一生命ホールディングス
大和ハウス工業
中越パルプ工業
東芝デジタルソリューズ
日本製紙
日本印刷
日本ユニシス
長谷工コーポレーション
富士ゼロックス
フジテレビ
三菱鉛筆
ミツカン
明治安田生命
森永製菓
メガネ・コンタクトパーク
N・ポ・ニ・チ・ポ・ニ・チ・プラ・イ・ム
毎日物流センター
毎日新聞社
毎日放送
毎日放送
毎日放送